

カフェイン摂取により心房細動のリスクが低下

習慣的なカフェイン摂取と心房細動の関連性については知られていない。そこで、本研究ではメタ分析により慢性的なカフェインの暴露と心房細動の関係について調べ、その用量反応関係について評価した。

PubMed、Embase、コクランライブラリーにおいて、2013年11月までの文献を検索し、6件の前向きコホート研究を採用し、228,465人を対象者とした。第1次メタ分析により、カフェインの暴露と心房細動のリスクの低下について弱いながらも関連性が認められた（相対比率 0.90; $p=0.07$ ）。交絡因子を補正したサブグループ分析によると、カフェイン摂取が低用量の場合は心房細動のリスクが11%低下し（相対比率 0.89; $p=0.032$ ）、カフェイン摂取が高用量の場合は心房細動のリスクが16%低下した（相対比率 0.84; $p=0.002$ ）。用量反応関係については、カフェインの習慣的な摂取と心房細動のリスクの関係には負の相関がみられ、300mg/日のカフェイン摂取ごとに心房細動の発症は6%ずつ減少した。

したがって、カフェイン摂取が心房細動を引き起こすとは考え難く、逆に習慣的なカフェイン摂取により心房細動のリスクが低下する可能性が示唆された。

出典：Canadian Journal of Cardiology. Published online 06 Jan. 2014